

# 三月の空に

（はたする草最終号）

「家なま子」の物語の結はこんな言葉で終わっている。

——前へ。

君たちは 海の夜明けを見たときがあるだろうか。  
暗闇の牙から  
炎が見え出し  
空とのけじめがつけられる。

遠くの空の断崖から  
炎が水平にひかれていく。

何億年も前から  
毎日 毎日 新しくいまなおおこれてきた  
このスタートライン

ここから 今日 蘇らせていく。

辛いことに出会った 次の日も  
いやなことに出会った 次の日も  
悲しいことに出会った 次の日も

君たちは  
ヨちがいなく  
この決心のような 毅然とした  
スタートラインに立っているのだ。

三月の空に  
私は願う。

君たちの足音は

——前へ。



出発の時刻です

山中環子

暗い中から

つぎでた 草の芽

とこのつらさも

はねのけていく

たのしみ

福三子

校長室

だより

はたする草

平成二十九年三月十三日（月）

NO.135